

慈明院寺報九月号

いろは歌の元ネタ

お寺の法会や葬儀・法事の席で、「いろは歌」という御詠歌を唱えている。

御詠歌は元々、四国や西国三十三観音霊場などを巡拝する際に唱えられていたじゅんれいかきげん 巡礼歌が起源である。仏様の徳を讃えたり、供養の意味が歌詞に込められて いる。いろは歌にも仏教の故事と教えが詰まっている。

昔々、雪山童子といいう修行者がおりました。ある日、童子が山中で修行をしていると恐ろしい鬼が、不思議な詩を唱えているのを耳にしたのです。

— 諸行無常 是生滅法（この世に在るものにはすべて移ろい 変わらぬものは何も無い。生じたものは必ず滅していくことが、本来の道理である。）』

しかし、その鬼は空腹で童子を食べさせてくれるなら、続きを教えると答えたのです。童子が約束を守ることを誓うと、鬼は再び詩を唱えました。

『生滅滅已』寂滅為樂（生じることや滅することの苦しみから離れ、心が
じやくめつ いらく しょうう
しょうめつめつち

静まつていることが、本当の安らぎなのである）

童子は喜び、この詩を多くの人に伝えるため岩に刻み込むと、約束通り鬼の口に身を投げました。すると鬼の姿は、帝釈天たいしゃくてんという神様に変わり、童子を空中で受け止めて、優しく地上に降ろし礼拝らいはいしたのでした。この雪山童子こそ生まれ変わる前の、過去のお釈迦様であると伝わっています。（涅槃經卷十四）

いろ
にお
色は匂えど散りぬるを (諸行無常)
うい
おくやまけふこ
有為の奥山今日越えて (生滅滅已)
わ
よたれ
つね
我が世誰ぞ常ならむ (是生滅法)
あさ
ゆめみゑ
浅き夢見じ酔いもせず (寂滅為寂)

麗しく香る花々もやがて散つていく。常に変わらないものなど何処にあろうか。

夢に惑わず、酒に酔つたような生活をするまいという教えである。住職 合掌

慈明院（〒八一一一一三一 福岡市早良区大字西二三四一—〇）
TEL（〇九二）八〇四一四五七〇 FAX（〇九二）八〇四一四六〇五
住職・吉住大慈 携帯電話〇九〇一（五二八一）一七四九四
よしずみだいじ
よしずみだいじ

TEL (092) 804-4570 FAX (092) 804-4605

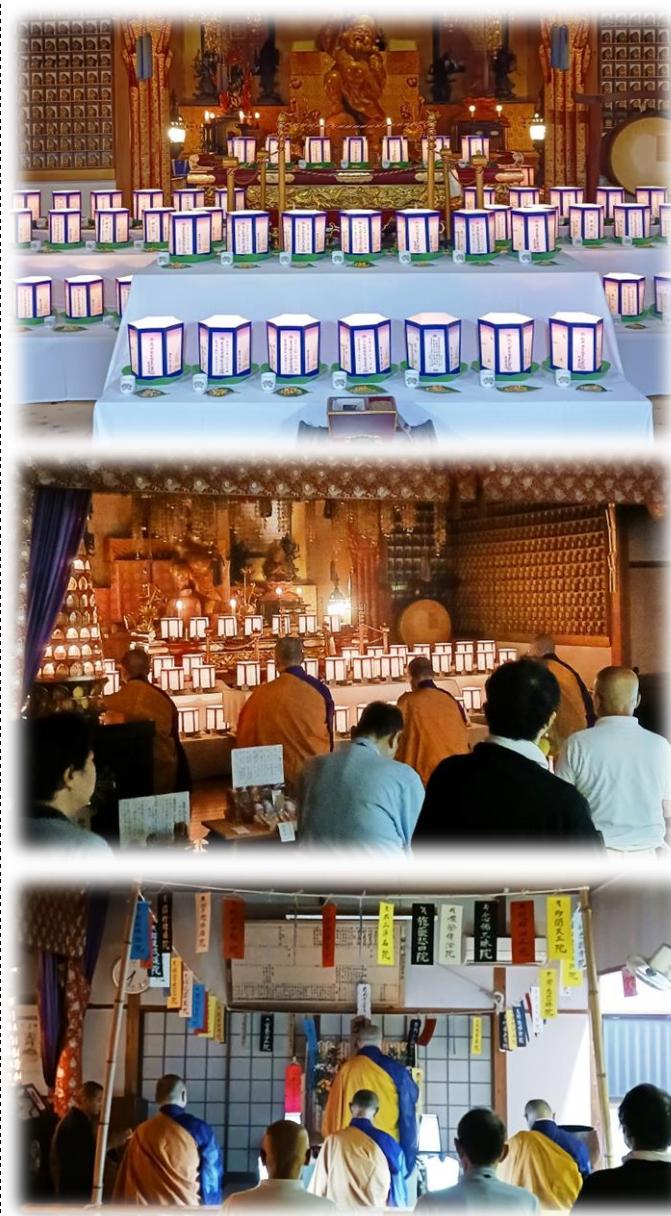
住職・吉住大慈 携帯電話〇九〇一（五二八一）一七四九四

次季彼岸・塔婆供養法会のご案内（別紙参照）
来る 令和五年 九月二十三日（土曜日）秋分の日

午前十一時より

来る令和五年九月二十三日（土曜日）秋分の日

どなたでも塔婆のお申し込み、当日のご参拝は出来ます。案内状をご参照頂き、宜しければお参り下さいませ。（昼食、大黒饅頭をお接待致します）



残暑や台風で体調を崩されていませんか。初秋お伺い申し上げます。
くず
しょしゅう
うかが